

住

三年

【画数】7
【筆順】イ 亻 宀 住
【オン】ジュウ
【クン】す じ む り ま う

成り立ち



燭台に火がともっている形をあらわし「まん中にあるまる」といういみをあらわした「主」と「人」の形をあらわした「イ」とを組み合わせて作った字です。
「人が、家のまん中にある燭台をかこんであつまる」といういみの字で、「人がすんでいること」をあらわしたものです。

〔住の音はジュウであるが、これは「主」の音が変化したというよりは、「イ」の音のジンの頭韻ジに「主」の脚韻ユウが結合したものと見るべきである。会意形声字の場合にはこのような例が多い。〕

使い方

▽むかしむかし、あるところに、おそろしい山うばが住んでおりました。山うばは、通りがかった人をつかまえては頭から食べてしまうのでした。

▽わたしの住んでいるところは山下町といいます。前は、高木町というところに住んでいたのですが、おとうさんのつとめ先がかわったため、ひっこして来たのです。

熟語例

- ▽住居（住まい。人が住むところ）
- ▽住所（住んでいる所。とくに、その所番地をいいます。「あなたの住所を教えてください」といふうに、つかいます。）
- ▽住民（そこに住んでいる人。「東京都の住民」などというふうに、つかいます。）
- ▽安住（安心して住むこと。安らかにおちついて住まうこと。「ついに安住の地を見いだした」といふうに、つかいます。）
- ▽衣食住（衣服と食物と住居。人が生活するのに、ぜひ、ひとつような三つのもの）

重

三年

【画数】9
【筆順】一 斤 重
【オン】ジュウ・チヨウ
【クン】え ー か さ じ ね る じ なる お も じ

成り立ち



りようはしをくくったふくろの形をあらわした「車」と、地上に立つ人の形をあらわした「工」とを組み合わせた字で、「重いふくろを体にまとして地上に立った人」をあらわしています。「おもい」といういみをあらわした字です。【例】重荷、重量。

「きもの上にふくろを重ねてつける」ということで、「かさねる」「かさなる」といういみをあらわしています。【例】重箱、五重の塔、八重桜。

「重々しい（おちついている）」といういみにもつかいます。【例】重厚な人がら、慎重。
また、「重んずる（たいせつにする）」といういみにもつかいます。【例】尊重、貴重、重視。

使い方

- ▽むかしの貴族の女性は、十二ひとえといつて、何枚も重ねたきものをきました。ずいぶん重かったのではなにかと思ひます。
- ▽今年も八重ぎきの桜がさきました。八重ぎきの桜は一重の桜にくらべると、ぼつてりと重い感じがします。

熟語例

- ▽重荷（重い荷物。「すすんで負えば重荷も重からず」といふことばがあります。自分からすすんで背負えば、重い荷物も、それほど重くと思わずにすむ、といういみです。）
- ▽重量（重さ。「この品物の重量は六キログラムです」といふうに、つかいます。）
- ▽重箱（何段も積み重ねられるように作られた、料理を入れる箱。「重箱のすみをほじる」といえば、「細かいことをうるさく言う」といういみに、つかわれます。）
- ▽慎重（注意深く、おちついていること。「慎重に車を運転する」といふうに、つかいます。）
- ▽尊重（尊敬し、重んずること。「相手の立場を尊重する」といふうに、つかいます。）